

令和 4 年 9 月 15 日現在

機関番号：30116

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2021

課題番号：16K04641

研究課題名(和文) 文系専門教育と関連する職業統合的学習の可能性と汎用的キャリア教育研究

研究課題名(英文) Research on the Possibility of Work Integrated Learning and Versatile Career Education Related to Professional Education in the Humanities

研究代表者

椿 明美 (TSUBAKI, Akemi)

札幌国際大学・人文学部・教授

研究者番号：00320581

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：人文・社会科学系の学修は、職業的レリバンスの希薄さが問われているが、本研究において、この分野の教育の「専門性の把握し難さ」と「仕事での有用性の意識し難さ」が浮かび上がった。この専門分野の学修から得られる転移可能な能力としてのアカデミックスキルが有用であり、これを戦略的なカリキュラム編成により、常に「自分の専門テーマ」と社会の繋がりを意識し、ゼミやインターンシップ等で大学と社会との往還を重ね、職業的レリバンスへとつながる教育が必要であることが分析から得られた。職業統合的学習として、カリキュラムに上記要素を組み込むことで、この分野の職業準備性、雇用可能性を高める必要性が把握できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学びとは関連せず参加者も低迷する文系のインターンシップではなく、カリキュラムと関連性を持つ「職業統合的学習(WIL)」としてのインターンシップに取り組むことで、学生の学習意欲や成長、満足度に影響を与え、職業準備性と雇用可能性を高める効果が見込まれる。

また、インターンシップのほかPBL、フィールドワーク、資格実習、サービス・ラーニング等も、職業統合的学習(WIL)の枠組みとして広く捉え、学修と関連性を持たせカリキュラムに組み込むことで、人文・社会科学系教育の社会への接続を促すことに寄与する。

研究成果の概要(英文)： Questions have been raised over the supposed lack of professional relevance of learning in the humanities and social sciences. Previous studies have suggested that education in these fields faces challenges both in building expertise and in applicability to the workplace. The analysis conducted here, however, indicates that academic skills acquired through education in these fields are useful as transferable abilities. Moreover, strategic curricula enable students to gain awareness of the connections between their specialized theme and society. Thus, education that emphasizes professional relevance through opportunities such as seminars and internships with links between universities and society is called for.

These results suggest the need to increase the occupational readiness and employability of students in the humanities and social sciences by incorporating into the curriculum elements such as Work Integrated Learning.

研究分野：教育社会学

キーワード：職業統合的学習 インターンシップ キャリア教育 雇用可能性 職業的レリバンス

## 1. 研究開始当初の背景

大学でのインターンシップの実施状況は、平成 26 年日本学生支援機構が行った「平成 24 年度、25 年度大学等におけるインターンシップの実施状況に関する調査」によると、単位認定をする授業として実施している大学は 91.5%、参加人数は 18.5%で実施大学の量的拡大はなされているが、参加者数は微増で 5 人に 1 人の割合でしか経験していない。吉本(2013)は、日本のインターンシップは「一部の学生のための」「短期」「無報酬」「職業に直結しない」いわば模擬的、試行的プログラムという面が強調されており、企業とのパートナーシップも未発達という点で質的課題を挙げその限界を呈している。保育士や管理栄養士の資格実習のように専門として学んだことが実習で確認できるものとは異なり、人文・社会科学系のインターンシップは、多くが大学で学んだこととインターンシップで体験することは関連しない。

2013 年に実施した「文系大学・短期大学インターンシップ・キャリア教育実施状況調査」(研究代表者：椿明美)では、31.8%の大学で、学習したことと関連のあるインターンシップを実施していたが、約 7 割は関連しないインターンシップを行っていることがわかった。(この 3 割には管理栄養士、保育・福祉といったものも含まれる。)

一方、平成 27 年度学校基本調査(速報)によると、大学卒業後の状況で「一時的な仕事に就いた者」及び「就職も進学もしていない者」は、分野別に上位から見ると、人文 16.2%、社会 13.5%で、依然人文・社会科学系学生にこそ社会への接続問題が存在している。椿、吉本(2016)は、大卒 IR を目的とした文系大学卒業生調査を行い「観光」「人文・ビジネス」「国家資格(福祉・保育)」「国家資格(栄養士・管理栄養士)」の 4 分野における「インターンシップ」「資格実習」「専門関連アルバイト」「専門非関連アルバイト」「就業体験なし」の回答項目と卒業生のアウトカム(満足度)との相関関係を探った。その結果、資格実習経験、およびカリキュラムと関連するインターンシップやアルバイト経験は、就業観や満足度と相関関係があることがわかった。これらのことから、カリキュラムと関連する就業実習がアウトカムに影響するという知見を得た。

## 2. 研究の目的

本研究は、社会への移行を促す学習活動として、大学教育のカリキュラムと職業実践を統合させた教育、すなわち「職業統合的学習(Work Integrated Learning: WIL)」の有効性を明らかにするため、文系の専門教育、教養教育と関連する職業統合的学習(WIL)としてのインターンシップの現状を明らかにする。そして、人文・社会科学系の教育の職業的レリバンスを探り、それを基盤とした人文・社会科学系学部における汎用的なキャリア教育を検討することを目的とする。

## 3. 研究の方法

文系大学における職業統合的学習(WIL)の実施状況を把握するため、2016 年度は、2014 年に実施した「大学の学習成果と卒業生のキャリア形成に関する調査」をもとに、本研究に必要な WIL 分析を行い卒業生ヒアリング調査と、大卒 IR を進めている大学のヒアリング調査を行った。2017 年度は、前年度のヒアリング調査結果を受けて、地方の私立文系の教育機関ヒアリング調査とインターンシップ経験学生を対象に「フォーカスグループインタビュー」を実施した。2018 年度は、職業統合的学習(WIL)の実態把握として学生インタビュー調査と大学の事例を調査した。

2019 年度は、人文・社会科学系大学の卒業後 4~6 年の卒業生アンケート調査と、卒業後 4~5 年の卒業生に対し半構造化インタビューを実施し、M-GTA 分析をした。2020 年度は、事前に実施した人文・社会系学部卒業後 4~6 年の全国アンケート調査結果とヒアリング調査を照らし合わせる混合研究を行った。2021 年度は、3 つの学会の研究動向の比較研究と豪州 2 つの大学の WIL 研究を行った。さらに、最近活発に行われている企業が主催するインターンシップの現状を学生インタビューで聴き取り、キャリア教育とどう関連づけられるかを探った。

## 4. 研究成果

### (1) 私立人文・社会科学系の教育とキャリアとの関連性

#### ① 卒業生量的調査結果の WIL 分析

職業との密接な関係性を持たない人文・社会科学系の学修にこそ、学びと職業とを繋ぐ、「職業統合的学習(WIL)」が効果的ではないか、という問いのもと本研究はスタートした。まず始めに、2014 年に実施した「大学の学習成果と卒業生のキャリア形成に関する調査」の調査分析報告(2016)をもとに、本研究に必要な WIL 分析を行った。調査からは、大学教育や学生生活の満足度と現在のキャリアの非一貫性が把握できた。

#### ② 卒業生ヒアリング調査

卒業生ヒアリング調査から、インターンシップ経験は複数回必要であること、またインターンシップで得られたことは「時間意識」であったこと、現在の仕事で必要なことは「マルチタスク」

をこなすことであり、仕事において必要な「自己管理能力」は、インターンシップでさらに強く意識づけられ、その効果が把握できた。

### ③地方私立人文・社会科学系大学の実情

地方の私立人文・社会科学系大学（短期大学含む）北海道、長野県、九州の大学を訪問しヒアリング調査を実施した。この調査から、大学での学びと関連させたインターンシップはほとんど行われていないことが分かった。結果論として、一部の学びが関連するであろうということではあったが、カリキュラムを作る段階で意図して、科目で学ぶことを関連させてインターンシップに向けていくことを計画したものは見られなかった。大学によっては、初年次に学外に出る授業を必修科目として設置し、その後、インターンシップ、さらにPBLと高度化しようカリキュラム構成をするなどの工夫は見られたが、教育と関連させる職業統合的学習（WIL）という枠組みで組み立てられたものではなかった。

大学（短期大学含む）事例調査では、留学、有償長期インターンシップ、課題解決型授業を構造化してカリキュラムを組むことにより、それらの目標に向かい学生が学修目標を定めて行くことで、より学修効果が上がることが把握できた。今後、職業統合的学習（WIL）を基盤とするカリキュラムの構造化を検討する上で重要な点を把握した。

### ④在学生ヒアリング調査結果

インターンシップ経験学生を対象に「フォーカスグループインタビュー」を実施した。職業統合的学習（WIL）として組み込まれていないインターンシップにおいて、汎用的な学び、ビジネス実務系の知識やスキルは職場で活用ができ、学んだことを社会に出て活かすことができるということが明らかになった。

また、インターンシップや就職において、学生が大学での学びと関連していると意識していないことでも、ヒアリングで聞き出すことで関連があることが見えてきた。つまり、関連や役立ち感が得られていないが実際には繋がりがあるということがわかった。何を持って学修が活かされていると捉えるかが問題であるということが見えた。

## （2）卒業後5年調査の結果

### ①卒業生アンケート調査

卒業して5年程度を経過した卒業生を対象にアンケート調査を行った。卒業後2・3年ではなく、ある程度経験を積んで落ち着いてキャリアを考えられる年齢に絞って調査を行った。

卒業生アンケート調査は、インターネットを用いたWeb調査で、私立文系大学卒業生（法学部・社会学部・人文学部・文学部）の卒業後4～6年、206名の回答を得て分析を行った。大学での学び・経験と初職や職業との関連性においては、この4学部の卒業生は事務職に就いている割合が高く、大学の学部学科と職業との適切性は見られなかった。

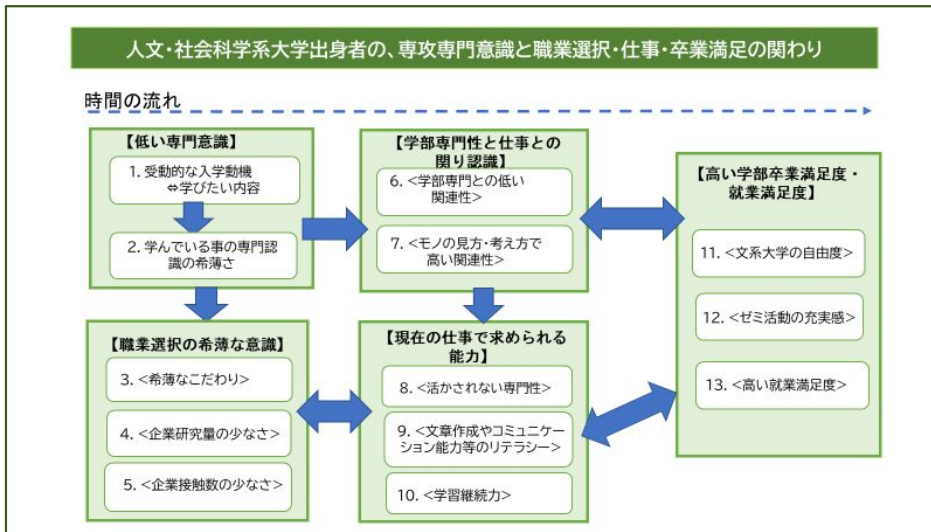
また、大学で身につけた能力を知識・技能・態度に焦点化して分析したところ、大学での学びの仕事活用は低い結果となったが、管理的職業に就いている層では大学での学修の活用が高い傾向が見られた。大学の専門と職業との関連は直接的ではなく、ものの見方や考え方といった人間形成において培われたものが、管理的な職業で必要とされるものに活かされる可能性が窺えたが、サンプル数が少ないためさらに更なる調査が必要である。

### ②卒業後4・5年卒業生ヒアリング

学びと職業との関連を見るため、卒業後4～5年の卒業生に対し半構造化インタビューを行い、その実情をM-GTAの分析手法を用い5つの概念を生成し解釈・分析した。（図1）その結果、人文・社会学系学部・学科を選ぶ学生は、入学以前に具体的な職業イメージを持ちにくい、在学中、卒業後とも専門意識は低い傾向が見られた。さらに、大学での学びと現在の仕事の関りは「ない」と答えるが、大学教育は「ものの見方・考え方に影響を及ぼしている」「文章作成、コミュニケーション力で有効」と認識していることがわかった。

また、大学での教育が関連するインターンシップ、例えば、社会学部での社会調査を活かせるインターンシップ等の満足度は高く、職業統合的学習（WIL）の可能性を示唆したがサンプル数が少ないため今後の課題となった。

図1 人文社会系学部卒業生の専門と職業との関連性認識



### (3) 人文・社会科学系教育の職業的レリバンス

人文・社会科学系学部の職業的レリバンス探求のため、前年度の研究成果、人文・社会科学系学部卒後4~5年の卒業生に対する半構造化インタビュー結果をM-GTAで分析したものを、事前に実施した人文・社会科学系学部卒後4~6年の全国アンケート調査結果と照らし合わせる混合研究を行った。結果、学部教育で得られたコミュニケーション能力や文章を書く力などアカデミックスキルが仕事に活用されていることが分かった。(図2)

今回の分析結果から、人文・社会科学系教育は職業と関連しないという批判に対するものとして、アカデミックスキルを活用した職業実践を戦略的に教育課程に組み込み、職業統合的学習(WIL)を援用することで、人文・社会科学系学部の職業的レリバンス強化を図ることができるのではないかと、その方向性を示した。

すなわち人文・社会科学系学部の教育と職業社会をどう関連づけるかという観点から、カリキュラム編成において、教養教育・専門教育の中核に初年次教育、専門ゼミナールを置き、アカデミックスキルや知識を教養教育や専門科目の中で確実に身に付け、その応用として専門ゼミナールでフィールドワークをより多く設定する。さらにキャリア教育の一環としてインターンシップ等で大学と社会との往還を重ね職業統合的学習(WIL)としてカリキュラムに組み込むことで体系化を図り、その効果を上げるものと考えられる。(図3)

本卒業生調査でこの人文・社会科学系分野の専門性の把握し難さと仕事での有用性の意識し難さが指摘され、学ぶ者への体系的な説明不足が大学側の課題として浮かび上がった。この分野の学修から得られる転移可能な能力としてアカデミックスキルを戦略的なカリキュラム編成により可視化し提示することで、常に「自分の専門テーマ」と社会の繋がりを意識し、職業的レリバンスへとつながる教育が必要であることが分析から得られた。

図3 質的・量的混合研究分析

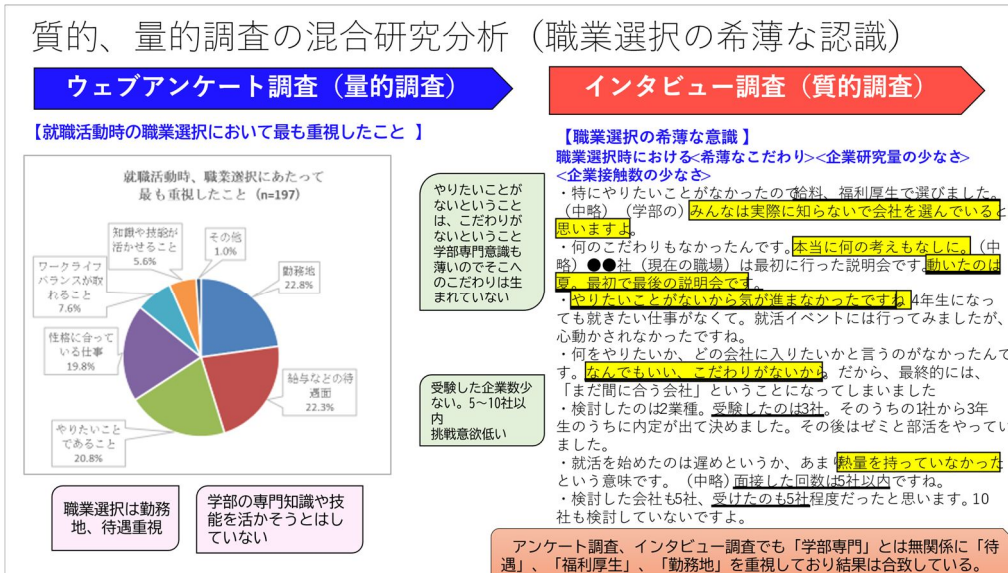
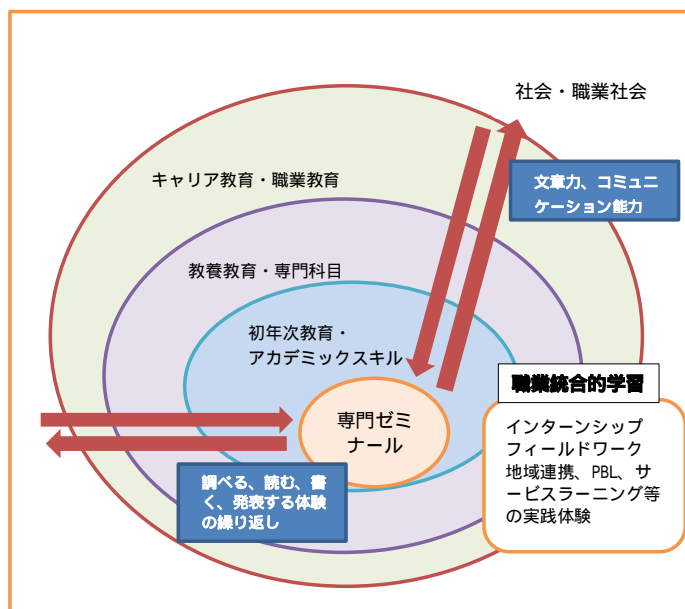


図3 専門ゼミナールを中核とした人文・社会系学部教育と社会・職業社会から求められる能力育成との関連性



#### (4) 職業統合的学習 (WIL) の可能性

職業統合的学習 (WIL) の展開可能性を探るため、3つの学会の研究動向の比較研究からインターンシップ研究が職業統合的学習 (WIL) の観点で発展的に捉えられてはいない実情が把握できた。その中で、職業統合的学習 (WIL) の再確認のため、豪州2つの大学の職業統合的学習 (WIL) 研究をした。豪州では、大学教育のカリキュラムの中で理論と実践を統合させる職業統合的学習 (WIL) を導入することは、職業準備性およびエンプロイアビリティを高めるのに有効であるとしている。そして高い能力を持った雇用者を育成することが大学教育の明確な目的であり、学修の質保証、雇用可能性を育成するところに位置づけられていること、さらに2つの大学の職業統合的学習 (WIL) には、大学での位置づけに差異が確認できた。

また、拡大が続く企業主催のインターンシップの現状を学生インタビューで聞き取り、キャリア教育とどう関連づけられるかを探った。その結果、コロナ禍においては、Web型インターンシップが活発に実施され、その内容も学生に求めるものが高度になっていることが窺えた。大学で行っているインターンシップとの住み分けを検討し、より雇用可能性の高いインターンシップを検討する必要があることが把握できた。

本研究テーマは、人文・社会科学系大学教育のカリキュラムと職業統合的学習 (WIL) の検討であったが、有用な人材育成として「雇用可能性」を具体化するために、インターンシップのみならず大学で行っている活動を、どのようにカリキュラムに体系化するのが効果的なのかが課題である。日本社会の文脈において「学習者」、「教育機関」、「労働市場」の3つの視点からカリキュラムと職業実践を統合させる組み立ての重要性が明確となった。人文・社会科学系学部学科において、「雇用可能性」という観点でのカリキュラム構造化を図ることで、大学と社会の接続の強化が図られると考える。

#### 【参考文献】

- 吉本圭一・稲永由紀 (2013) 「諸外国の第三段階教育における職業統合的学習」 高等教育研究叢書、122巻、広島大学高等教育研究開発センター -12頁、111-112頁
- 椿明美 (2016) 「職業統合的学習と就業観」 吉本圭一編、『九州大学「高等教育と学位・資格研究会」ワーキングペーパーシリーズ No.3 「大学教育における職業統合的学習の社会的効用 IR 枠組みによる「大学の学習成果と卒業生のキャリア形成に関する調査」報告書 - 』第4章、九州大学第三段階教育研究センター、37-46頁
- 二宮祐 (2018) 「学生時代の経験を顧みる 聞き取り調査の結果から」 本田由紀編『文系大学教育は仕事の役に立つのか 職業的レリバンスの検討』、ナカニシヤ出版 125-15頁
- 小方直幸 (2002) 「職業的レリバンス研究における大学教育 - 質問紙調査の能力項目分析 - 」 『広島大学大学院教育学研究科紀要』第三部、第51号、407-413頁
- 小方直幸 (2006) 「大学教育と労働市場の研究—回顧と展望—」 広島大学高等教育センター『大学論集』第36集、244-255頁

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計41件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 23件）

1. 著者名 吉本圭一	4. 巻 第24号
2. 論文標題 日本のインターンシップから職業統合的学習へ 研究視座の総合と体系化に向けて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 インターンシップ研究年報	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 江藤智佐子・手嶋慎介・椿明美	4. 巻 第24号
2. 論文標題 インターンシップから職業統合的学習（Work integrated Learning）への展開可能性 - 研究誌からみた学会の研究動向に着目して -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 インターンシップ研究年報	6. 最初と最後の頁 21-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 椿明美・和田佳子	4. 巻 第52号
2. 論文標題 人文社会系学部卒業5年調査に見る、学び・経験と職業の関連性 M-GTA による質的調査分析から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 札幌国際大学紀要	6. 最初と最後の頁 67-82頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 江藤智佐子	4. 巻 第16号
2. 論文標題 制度化された中間組織としての学校運営協議会の組織運営 - コミュニティ・スクールの地域連携教育活動に着目して -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 久留米大学文学部紀要情報社会学科編	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 伊藤一統・江藤智佐子・吉本圭一	4. 巻 第16号
2. 論文標題 教育実習・保育実習における共通性と固有性 - 法制・カリキュラム・プロセス -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 久留米大学文学部紀要情報社会学科編	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉本圭一	4. 巻 第50巻第2号
2. 論文標題 教育と職業の界をつなぐ学位・資格枠組み - 職業教育とその学の未来形 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 職業教育学研究	6. 最初と最後の頁 1-18頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 樁 明美・和田佳子	4. 巻 第20号
2. 論文標題 「人文・社会科学系大学の学び・経験と職業的レリバンス」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 九州大学教育社会学研究集録	6. 最初と最後の頁 11-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉本圭一	4. 巻 vol.20
2. 論文標題 コンピテンシーの分野別参照基準から学位・資格枠組みへ - 課題の提起 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 吉本圭一編 『EQGC日韓国際セミナー - コンピテンシーの分野別参照基準から学位・資格枠組みへ』 成果報告書	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉本圭一	4. 巻 vol.21
2. 論文標題 国家学位資格枠組と学習成果へのアプローチ - 課題の提起 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 吉本圭一編 『EQGC国際カンファレンス 学修成果と職業の質保証 - NQFの世界的展開と日本の未来 』成果報告書	6. 最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 江藤智佐子	4. 巻 vol.21
2. 論文標題 日本的文脈における分野横断的チューニング- 7 分野のマトリクス作成手順-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 吉本圭一編 『EQGC国際カンファレンス 学修成果と職業の質保証 - NQFの世界的展開と日本の未来 』成果報告書	6. 最初と最後の頁 73-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉本圭一・江藤智佐子	4. 巻 vol.22
2. 論文標題 7専門分野学修成果マトリクスの日本的文脈とコンピテンシー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 吉本圭一編 『分野別学修成果可視化と国際的分野間横断体系化による職業実践専門課程の質保証・向上 (2)』成果報告書	6. 最初と最後の頁 17-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉本圭一・江藤智佐子・福島統・小林光俊・関口正雄・志田秀史・中平剛志・川口青児	4. 巻 vol.22
2. 論文標題 コメディカル分野マトリクス策定プロセス - 3つの国家資格のチューニング	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 吉本圭一編 『分野別学修成果可視化と国際的分野間横断体系化による職業実践専門課程の質保証・向上 (2)』成果報告書	6. 最初と最後の頁 26 - 35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -



1. 著者名 吉本圭一・亀野淳・江藤智佐子・椿明美・古田克利・和田佳子	4. 巻 vol.22
2. 論文標題 ビジネス分野における学修成果マトリクスの改定プロセス	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 吉本圭一編『分野別学修成果可視化と国際的分野間横断体系化による職業実践専門課程の質保証・向上(2)』成果報告書	6. 最初と最後の頁 59-64
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉本圭一	4. 巻 vol.22
2. 論文標題 日韓国際セミナー「コンピテンシーの分野別参照基準から学位・資格枠組みへ」の論点	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 吉本圭一編『分野別学修成果可視化と国際的分野間横断体系化による職業実践専門課程の質保証・向上(2)』成果報告書	6. 最初と最後の頁 71-76
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉本圭一・江藤智佐子	4. 巻 vol.22
2. 論文標題 国際会合から学ぶもの	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 吉本圭一編『分野別学修成果可視化と国際的分野間横断体系化による職業実践専門課程の質保証・向上(2)』成果報告書	6. 最初と最後の頁 77-82
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉本圭一・亀野淳・江藤智佐子	4. 巻 第22号(通巻第65集)
2. 論文標題 第三段階教育における学修成果と職業コンピテンシーの対応に関する化球・大学と専門学校のビジネス分野を対象として-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 九州大学大学院教育学研究紀要	6. 最初と最後の頁 11-42
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 江藤智佐子	4. 巻 第15号
2. 論文標題 韓国NCSにおける職業能力と学習モジュール - ビジネス分野の基礎レベル能力に着目して -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 久留米大学文学部紀要情報社会学科編	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 椿明美	4. 巻 50
2. 論文標題 実務教育とインターンシップの関連性 ~ 札幌国際大学短期大学部の事例研究 ~	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 札幌国際大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 95 104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉本 圭一	4. 巻 21
2. 論文標題 教育と訓練をめぐる専門分野分類再考 第三段階教育の学術性と職業性 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 九州大学大学院教育学研究紀要	6. 最初と最後の頁 25-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉本 圭一・坂巻文彩	4. 巻 21
2. 論文標題 大学における学修成果と質保証のための卒業生調査 九州大学教育学部卒業生調査にみる職業統合的学習 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 九州大学大学院教育学研究紀要	6. 最初と最後の頁 45-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 江藤智佐子	4. 巻 14
2. 論文標題 「非資格系」分野における専攻と関連した職業統合的学習 - 文医連携による課題解決型学習 (PBL) プログラムの開発 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 久留米大学文学部紀要情報社会学科編	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉本 圭一	4. 巻 19
2. 論文標題 NQFの概要と日本的課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 平成30 年度文部科学省委託事業 職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進事業成果報告書「分野別学修成果可視化と国際的分野間横断体系化による 職業実践専門課程の質保証・向上」	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉本 圭一・亀野 淳・江藤 智佐子・清崎 昭紀・古田 克利・椿 明美・中濱 雄一郎・古賀 正博・和田 佳子	4. 巻 19
2. 論文標題 ビジネス分野の学修成果マトリクス改訂とL0調査	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 平成30 年度文部科学省委託事業 職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進事業成果報告書「分野別学修成果可視化と国際的分野間横断体系化による 職業実践専門課程の質保証・向上」	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉本 圭一・江藤智佐子	4. 巻 19
2. 論文標題 学修成果とコンピテンシーの検証について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 平成30 年度文部科学省委託事業 職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進事業成果報告書「分野別学修成果可視化と国際的分野間横断体系化による 職業実践専門課程の質保証・向上」	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 江藤智佐子・吉本 圭一	4. 巻 19
2. 論文標題 ビジネス分野の学修成果・コンピテンシーに関する調査の概要	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 平成30年度文部科学省委託事業 職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進事業成果報告書「分野別学修成果可視化と国際的分野間横断体系化による 職業実践専門課程の質保証・向上」	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉本圭一、江藤智佐子、椿明美	4. 巻 第50集
2. 論文標題 大学教育の成果をめぐるアプローチの多元性—卒業生調査による満足度とキャリアの非一貫性に着目して—	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 大学論集	6. 最初と最後の頁 145 - 154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 K. Yoshimoto	4. 巻 無
2. 論文標題 Feasibility and Challenges on a National Qualifications Framework and Permeability in Education and Training System in Japan',	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 R. Latiner Raby, E. J. Valeau (eds.), "International Handbook on Comparative Studies on Community Colleges and Global Counterparts", Springer	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉本圭一・江藤智佐子	4. 巻 第20号 (通巻第63集)
2. 論文標題 ビジネス分野における国家学位資格枠組 (NQF) の萌芽的展開 職業能力評価基準の事務系職種に焦点をあてて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 九州大学大学院教育学研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村哲・吉本圭一	4. 巻 第20号 (通巻第63集)
2. 論文標題 日本の調理製菓教育モデルの海外分校展開に関するケーススタディ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 九州大学大学院教育学研究紀要	6. 最初と最後の頁 41-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 江藤智佐子	4. 巻 vol.32
2. 論文標題 キャリア教育としての「総合的な学習の時間」の可能性 - 「教育指導演習」と「教育実習事前事後指導」を事例として -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 久留米大学コンピュータジャーナル	6. 最初と最後の頁 47-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 江藤智佐子	4. 巻 第13号
2. 論文標題 教職課程における学校インターンシップに関する研究 - アーリー・エクスポージャーの機能に着目して -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 久留米大学文学部紀要情報社会学科編	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 江藤智佐子	4. 巻 -
2. 論文標題 アドバスレベルにおけるリーダーシップ再考	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 平成29年文部科学省委託事業 専修学校による地域産業中核的人材養成事業成果報告書「国際通用性と地域性を踏まえた介護人材養成プログラムのモジュール開発プロジェクト」	6. 最初と最後の頁 47-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 江藤智佐子・吉本圭一・片山桂子	4. 巻 vol.18
2. 論文標題 医学分野における学修成果指標の探究と質保証	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 平成29年文部科学省委託事業 専修学校による地域産業中核の人材養成事業成果報告書「職業資格・高等教育資格枠組みを通じたグローバルな専門人材養成のためのコンソーシアム」	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 代表 椿明美、インターンシップ担当チーム	4. 巻 -
2. 論文標題 平成28年度札幌国際大学奨励研究「企業・学生ニーズを踏まえた発展的インターンシップの教育開発研究」最終報告書	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 札幌国際大学HP	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉本圭一・江藤智佐子・菊地克彦	4. 巻 第十九号(通巻 第62集)
2. 論文標題 日本における介護人材養成プログラム開発の研究 -職業教育の国際通用性に焦点をあてて-	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 大学院教育学研究紀要	6. 最初と最後の頁 19-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉本圭一・江藤智佐子・菊地克彦	4. 巻 203号
2. 論文標題 第三段階教育における職業教育 -諸外国との比較の観点から-	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 リクルート カレッジマネジメント	6. 最初と最後の頁 6-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Keiichi Yoshimoto, Katsuhiko Kikuchi, Chisako Eto	4. 巻 1
2. 論文標題 "Reform der Altenpflegeausbildung in Japan"	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 BWP	6. 最初と最後の頁 38-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉本圭一	4. 巻 第2号
2. 論文標題 高等教育とステークホルダー -学位・資格、地域社会からのアプローチ-	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 九州教育社会学会	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 江藤智佐子	4. 巻 第2号
2. 論文標題 短期高等教育における秘書教育とジェンダー - 秘書技能検定試験に焦点をあてて -	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 九州教育社会学会研究紀要	6. 最初と最後の頁 13-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 江藤智佐子	4. 巻 vol.31
2. 論文標題 ICTを活用した省察的学習 - 教職「教育指導演習」における教授法に焦点をあてて -	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 久留米大学コンピュータジャーナル	6. 最初と最後の頁 19-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 江藤智佐子	4. 巻 第12号
2. 論文標題 アクティブラーニングを活用した社会調査法による能力形成 - 大学と専門学校の学習モードの違いに着目して -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 久留米大学文学部紀要情報社会学科編	6. 最初と最後の頁 【印刷中】
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計38件 (うち招待講演 5件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 椿明美・和田佳子
2. 発表標題 文系大学における ジョブ型採用に対応し得るインターンシップの模索 - コロナ禍のインターンシップ調査から
3. 学会等名 日本インターンシップ学会北海道支部 2021年度研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉本圭一・江藤智佐子
2. 発表標題 第三段階教育における学修成果とNQFへのアプローチ- 学術と職業との往還 - (Learning outcomes in tertiary education and the NQF approaches ; the academic-vocational nexus)
3. 学会等名 高等教育国際シンポジウム「ウィズコロナ時代に高等教育は何を保証するのか」第3部【Tuning/参照基準】(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉本圭一
2. 発表標題 日本における学位・資格枠組み (NQF) の構造要件と構築プロセス
3. 学会等名 日本職業教育学会第2回大会
4. 発表年 2021年



1. 発表者名 吉本圭一・伊藤一統・江藤智佐子・志田秀史
2. 発表標題 職業能力と学修成果に関する研究 - 保育・介護・看護における社会人調査より -
3. 学会等名 日本職業教育学会第2回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 吉本圭一
2. 発表標題 職業統合的学習 (WIL) の研究にかかる問いと方法
3. 学会等名 日本インターンシップ学会第22回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 椿明美・手嶋慎介・江藤智佐子
2. 発表標題 豪州における職業統合的学習 (WIL) 実施大学の比較研究
3. 学会等名 日本インターンシップ学会第22回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 手嶋慎介・江藤智佐子・椿明美
2. 発表標題 ビジネス系大学教育における職業統合的学習
3. 学会等名 日本インターンシップ学会第22回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 江藤 智佐子・椿明美・手嶋慎介
2. 発表標題 職業統合的学習とインターンシップ研究
3. 学会等名 日本インターンシップ学会第22回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 吉本圭一
2. 発表標題 教育としてのインターンシップ再考
3. 学会等名 日本インターンシップ学会九州支部第26回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 江藤智佐子
2. 発表標題 インターンシップ研究のあゆみ
3. 学会等名 日本インターンシップ学会九州支部第26回研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 吉本圭一
2. 発表標題 教育と訓練をめぐる専門分野分類再考 第三段階教育の学術性と職業性
3. 学会等名 日本高等教育学会第24回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 橋明美・和田佳子
2. 発表標題 混合研究法を用いた、文系学部卒業生調査分析の試み
3. 学会等名 2020年度日本インターンシップ学会北海道支部研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 江藤智佐子
2. 発表標題 学術と職業のチューニングプロセスにおける日本の特徴 - エキスパート・ジャッジメントに着目して -
3. 学会等名 日本ビジネス実務学会第39回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 江藤智佐子
2. 発表標題 コミュニティ・スクールにおける学校運営協議会の組織活動 - 中間組織の継続性に着目して -
3. 学会等名 日本インターンシップ学会第21回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 江藤智佐子
2. 発表標題 教職協働による「大学ニューノーマル」への対応 - 教務関連の事例を中心に -
3. 学会等名 九州教育社会学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 吉本圭一他5名
2. 発表標題 職業教育機能から見た大学教員の職務と職能形成に関する研究- 12大学調査から -
3. 学会等名 日本職業教育学会第1回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 吉本圭一
2. 発表標題 学校と社会との間のコミュニティ形成
3. 学会等名 九州教育社会学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 ○榎 明美・○和田佳子
2. 発表標題 人文・社会科学系学部教育の社会的効用 - 卒業生アンケート調査結果から
3. 学会等名 日本インターンシップ学会北海道支部研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 ○和田佳子・○榎 明美
2. 発表標題 文系大学卒業生の職業選択絞り込みのプロセス-M GTA による質的調査分析結果から
3. 学会等名 日本ビジネス実務学会北海道ブロック研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 吉本圭一
2. 発表標題 地域連携・交流に関わる大学と教員 - 職業統合的学習に注目して -
3. 学会等名 日本高等教育学会第22回大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ○吉本圭一・○亀野淳・○江藤智佐子
2. 発表標題 第三段階教育におけるビジネス分野の学修成果とコンピテンシー
3. 学会等名 日本高等教育学会第22回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ○江藤智佐子・○椿明美・○和田佳子
2. 発表標題 ビジネス分野における職業能力と学習モジュール - 韓国National Competency Standards(NCS)を事例として -
3. 学会等名 日本ビジネス実務学会第38回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 江藤智佐子
2. 発表標題 資格系実習の評価方法と学修成果に関する研究
3. 学会等名 日本インターンシップ学会第20回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ○吉本圭一・亀野淳・江藤智佐子
2. 発表標題 非資格系分野におけるインターンシップと学修成果
3. 学会等名 日本インターンシップ学会第20回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 江藤智佐子
2. 発表標題 日本の文脈における分野横断的チューニング 7分野のマトリクス作成手順 -
3. 学会等名 EQGC国際カンファレンス「学修成果と職業教育の質保証 - NQFの世界展開と日本の未来 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 椿明美・江藤智佐子・吉本圭一
2. 発表標題 文系の専門教育と職業統合的学習(WIL)との関係
3. 学会等名 日本インターンシップ学会第19回大会(香蘭女子短期大学)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 江藤智佐子
2. 発表標題 ビジネス分野におけるレベルディスクリプタに関する研究
3. 学会等名 日本ビジネス実務学会第37回大会(徳島文理大学)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉本 圭一
2. 発表標題 大学文系の職業統合的学習 (WIL)とホワイトカラーの初期キャリア形成
3. 学会等名 日本インターンシップ学会九州支部 第21回研究会(九州大学)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 江藤智佐子
2. 発表標題 ビジネス分野における職業能力評価基準とコンピテンシー
3. 学会等名 日本インターンシップ学会九州支部 第21回研究会(九州大学)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 江藤智佐子
2. 発表標題 非資格系分野における専門と関連した職業統合的学習 (WL)
3. 学会等名 日本ビジネス実務学会第61回九州・沖縄ブロック研究会(福岡工業大学)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Keiichi YOSHIMOTO
2. 発表標題 The Quality of Education and Career of College Graduates - Focusing on the Inconsistencies in Satisfaction and Careers in Surveys of Graduates -
3. 学会等名 Conference on College Student Development and Employment: Reform and Innovation (Zhongguanyuan Global Village, Peking University) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 橋明美、小林純、石田麻英子
2. 発表標題 表現力を高め経験をとおして学ぶ
3. 学会等名 短大フォーラム#3 (愛知文教女子短期大学)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 橋 明美、和田佳子
2. 発表標題 教室内PBL学習による短大生のコミュニケーション能力の伸長と課題
3. 学会等名 日本ビジネス実務学会第36回全国大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 橋 明美
2. 発表標題 地方文系大学の学修とつながるインターンシップ -職業統合的学習の可能性を探る-
3. 学会等名 日本インターンシップ学会北海道支部研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉本圭一・稲永由紀・塚原修一・杉本和弘
2. 発表標題 第三段階教育の質保証にかかる国際的な政策学習過程の分析：豪・韓・日の学位・資格枠組みの開発に焦点をあてて
3. 学会等名 日本教育社会学会第69回大会
4. 発表年 2017年



1. 発表者名 江藤智佐子
2. 発表標題 職業教育における日本の学位・資格枠組みに関する考察 - 「職業能力評価基準」の事務系職種に焦点をあてて -
3. 学会等名 日本ビジネス実務学会第36回全国大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 江藤智佐子
2. 発表標題 教職課程における学校インターンシップ-アーリー・エクスポージャーとしての機能に着目して-
3. 学会等名 日本インターンシップ学会第18回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 江藤智佐子
2. 発表標題 ビジネス分野における職業能力のチューニング - 「職業能力評価基準」を中心として -
3. 学会等名 日本産業教育学会第58回大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 江藤智佐子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 245
3. 書名 実務と教養をつなぐ - 秘書教育プログラムの成立と変容	

1. 著者名 吉本圭一	4. 発行年 2020年
2. 出版社 科学情報出版	5. 総ページ数 234
3. 書名 キャリアを拓く学びと教育	

1. 著者名 吉本圭一編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 九州大学第三段階教育研究センター	5. 総ページ数 71
3. 書名 『EQGC日韓国際セミナー - コンピテンシーの分野別参照基準から学位・資格枠組みへ』成果報告書vol.20	

1. 著者名 吉本圭一編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 九州大学第三段階教育研究センター	5. 総ページ数 168
3. 書名 『EQGC国際カンファレンス 学修成果と職業の質保証 - NQFの世界的展開と日本の未来 』成果報告書 vol.21	

1. 著者名 吉本圭一編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 九州大学第三段階教育研究センター	5. 総ページ数 105
3. 書名 『分野別学修成果可視化と国際的分野間横断体系化による職業実践専門課程の質保証・向上(2)』成果報告書vol.22	

1. 著者名 児玉善仁・赤羽良一・岡山茂・川島啓二・木戸裕・斉藤泰雄・館昭・立川明編、吉本圭一、江藤智佐子ほか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 952
3. 書名 大学事典	

1. 著者名 稲永由紀・吉本圭一（編）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 広島大学高等教育研究開発センター	5. 総ページ数 120
3. 書名 非大学型高等教育を担う教員と教育組織	

1. 著者名 吉本圭一	4. 発行年 2018年
2. 出版社 丸善出版株式会社	5. 総ページ数 883
3. 書名 「インターンシップ」、日本教育社会学会（編）『教育社会学事典』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	吉本 圭一  (YOSHIMOTO Keiichi)  (30249924)	滋慶医療科学大学・医療管理学研究科・教授   (34451)	
研究分担者	江藤 智佐子  (ETO Chisako)  (30390305)	久留米大学・文学部・教授   (37104)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------